

昔から人類はさまざまな伝染病に悩まされてきたが、その過程で学んだのが、疫学という理論である。どのような伝染病であれ、感染源、感染経路、感受性者の3要素に分けて対策しなければならぬ。

いま猛威を振るっている新型コロナウイルスでも、それに感染して他人に移す状態の人が感染源といえるが、日常の場で、現在最も重要なことは、ウイルスを体内に持っている個人だけでなく、その人のいる場所全体を感染源プラス感染経路とみなす考え方である。

論壇



吉田 朝啓

最近の新聞、テレビなどの報道によれば、そういう場所の典型は、3密状態が起り得る飲食店、カラオケ店、職場での歓送迎会、親友同士の懇親会、家庭や地域の集会所といわれ、20歳からの働く世

ともいえる感染源対策のこのような不始末が、都市部から郊外へ、そして介護施設や家庭へと伝搬を促している実態に注目しなければならない。国内至る所で緊急事態宣言が発出されてからは行政による消毒のみでは感染は止められないとして、いま大きく感染源対策に動き出しているうねりがあることに注目したい。

コロナの感染源対策

大胆な政策転換期待

代がウイルス伝搬の主体となっている。しかも、午後8時まではあるが時短営業を許し、店内での飲食時にはマスクを外すことさえ認めるとき

れている。コロナ対策上の大きな課題

る営業規制が行われ、数多くの中小企業が廃業、休業、事業圧縮に追い込まれ、悲鳴を上げているのだ。しかし、狭い空間にウイルスが飛散している状態を改善しないままマスクとアルコール

国会議員と科学者たちが中心となり、密閉空間となり得る居酒屋などの環境をもっとダイナミックに改善しようという動きである。

ウイルス排除の科学的手段として最も重要な一つは、換気装置。

ただ室内の空気を混ぜるだけの扇風機レベルでは不十分で、室外と天井裏に排除するほどの強力な換気装置が必要だ。

換気後、なお残るウイルス

に対して提唱されているものに、適当な波長の紫外線照射と次亜塩素酸水溶液の噴霧がある。いずれも除菌効果は以前から実証されているが、長時間浴びた場合の人体への影響など衛生学的検討を経て、飲食店など庶民が出入りする空間にどのように設備するか、技術陣の腕の見せどころだ。

最も重要な案件として総工費の点だが、国からの休業支援金や沖縄県への地方交付金を活用して、環境整備に充てる町中の中小事業者を励ます大胆な政策転換が期待される。(那覇市、医師、90歳)